

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1090300250		
法人名	NPO わたらせライフサービス		
事業所名	グループホーム 仲町の家		
所在地	群馬県桐生市仲町1丁目13-33		
自己評価作成日	平成30年10月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	平成30年11月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「笑顔で過ごす、ぬくもりを感じる普通の暮らし」を掲げ、和やかな雰囲気を利用者様と職員が日々の生活を通して、信頼関係を築いている。一日2回の体操と1回の口腔体操を行い、身体機能の低下防止と残存機能の維持に努めている。また、年間行事を通して、生活感・季節感を味わえるようお花見・神事・誕生会等を行っている。食事は毎回の3食や季節料理(お節・ぼたもち・けんちん汁・クリスマスケーキなど)も利用者さまと一緒に手作りしている。菜園やグリーンカーテンで収穫した野菜も活用し、旬の味わいを楽しんで頂いている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

外部評価の結果を受止め、職員が利用者の為に努力を続けてきた成果が出ている。食事については、利用者が好む昔ながらの食事を職員が手作りしている。食べ慣れた献立は利用者の食欲を増進させ、健康な身体の維持に繋がる。そして、下準備や配膳の手伝いを楽しみにしている利用者を見守り支援することは、普通の生活を具現化することであり、正に理念に沿ったケアの実践といえる。また、新入職員も含め、職員の意見を積極的に取り入れていく事業所の姿勢がある。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・リビング・事務所に掲げ、職員は常に理念に基づいたケアの実践に努めている。理念に沿っていない点は会議で改善策を検討している。	新入職員にはオリエンテーションで理念について説明し、職員間で統一したケアの実践に取り組んでいる。時に第三者的な見地から理念について率直に意見を交わし、改善策に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。運動会・避難訓練等に地域の方に参加頂いている。外散歩時に挨拶や世間話で親しい関係作りをしている。	運営推進会議の開催を回覧板で町内会に知らせ出席を促している。掃除の際、近隣住民と会話を交わしたり、地域の為に力になることを伝え、相互に友好的な関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム開催の研修会に地域の方に参加して頂いた。 桐生市いきいき出前講座 “元気がいちばん！健康のすすめ” 地域の方5名参加		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催しており、利用状況・グループホーム内の状況報告、外部評価結果などを話し合い意見・要望を頂き、サービスの向上に活かしている。	隔月毎に家族、区長、民生委員、地域包括支援センター、行政の出席のもと開催している。利用者や事業所の現況報告、行事報告、テーマに沿った意見交換を行い、サービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者に運営推進会議に参加して頂き、その際に的確なアドバイスを頂いている。	緊急ショート受け入れの相談や事業所の取り組みについてアドバイスを受けている。事業所は介護保険の更新代行や認定調査に立ち会っている。『見守りネットワーク』の会にも管理者等が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は内扉やリビングからウッドデッキへはオープンにしている。利用者様の行動を制限する拘束・スピーチロックをしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠をしているが、外に出たい人には庭や散歩に出かけている。身体拘束廃止についての会議を開き、拘束のないケアを目指している。スピーチロックについては、拘束にあたる言葉を代わりに言葉を使い職員間で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時等に全身状態の観察を行い皮膚などに変化が見られた場合は記録に残し情報の共有・原因を話し合っている。会議・勉強会にて虐待を認識し、利用者様に対しての接し方に注意している。研修で学んだ事を伝える場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者が1名いた。後見人・市・包括担当者 と問題になっていること等を話し合い支援 を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	入居時の契約は書面にての説明と改めて 読んで頂き、納得の上で同意書にサインを 頂いている。また、入居前に見学をして頂 き、不安や疑問点について説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	玄関に意見箱を設置している。面会時には 利用者様の様子報告を行いその際に、ご家 族からの意見・要望を伺い、会議で話し合っ ている。	法人名で利用者、家族の満足度を調査する アンケートを検討している。家族が意見や要 望を言い易い環境作りを心掛け、利用者の 言葉は記録に残し職員間で共有し、運営に 反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議を開催し、職員の意見を議題 として取り上げ検討し、対応している。	毎月の職員会議では、職員が取り上げてほ しい案件を事前に意見箱に投じることで議題 とし、話し合いを通して運営に反映させてい る。働き易い環境作りの意見や提案もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	個々の職員と面談し現場の実情を把握し、 向上心を持って働けるよう職場環境の改善 を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	入職時は一日かけてオリエンテーションを実 施している。新入職時は2週間2人体制を とっている。月1回の会議後に30分の勉強 会を開催している。1～2回/年の外部研修 参加を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に入会して いる。外部研修に参加できる機会を作っ ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前調査時にご本人との面談を行いご本人が困っていること・不安なこと・要望等を伺い、安心して暮らせる支援に結び付けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安・困りごと・要望を聞き取り、どのような対応を望んでいるのかの把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に施設見学をして頂き、ご本人とご家族にとって必要を思われる支援、または他のサービス利用についても説明し、対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様それぞれに合わせて、調理(野菜切り・盛り付け)・掃除・洗濯物たたみを協力して頂きながら、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様とご家族の関係の理解に努め、よりよい関係が維持できるよう、面会時等は日常の様子を伝え、協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出や親戚や馴染みの方の訪問を歓迎し、居室等でゆっくり過ごして頂ける環境作りを行っている。来訪者と一緒に記念写真(希望があれば)を撮影し差し上げている。	親戚等の訪問や家族が届ける自宅とれた果物の馴染みの味を楽しむことや、庭の畑で作付けや収穫までの支援をしている。趣味のカラオケや調理の下準備等手伝ってもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格・心身状態・認知レベルなどを注意深く観察し、席替えや時には職員が間に入り、利用者同士の関わり合いの場を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院された方へのお見舞いや他施設に移られた方への面会に出掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり合いの中での表情や会話などからご本人の希望・意向の把握に努めている。困難な方にはご家族などから情報を頂き支援に繋げている。	利用者がどのように生活し、何にこだわってきたのか、その背景に基づいて、意向を把握することに努めているが、なかなか意見が出てこない。職員は推察し意向の反映につなげている。	その人らしさを知り、個別性のある介護計画を作成できるよう、何気ない日常の会話や表情からも意向の把握につなげてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報確認により把握に努めている。また、普段の会話等で個人の生活歴を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、個々のペースで生活を送れるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族の要望・思いを確認した上で、現在の課題を挙げケア計画を立案している。カンファレンスにて評価し、修正している。	利用者の言葉を大切にし、ケース記録に残し職員間で共有し、ケアマネジャーが介護計画に反映させている。毎月モニタリング、カンファレンスを行い3ヶ月毎に介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・口頭での引き継ぎを行い情報の共有を行っている。日々の様子で気づき等があれば介護計画の見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を聞きながら(確認しながら)、個々の希望に合わせたサービスを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	誕生会には歌や踊りのボランティアをよんでいる。運動会や避難訓練時には町内の方々に声を掛け応援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族対応の精神科定期受診時には、近況についての情報提供書を主治医にお渡ししている。往診時には状態報告を記したFAXを送っている。	毎月全員が協力医の往診を受けている。定期的な専門医への受診の際は、情報提供書を渡し家族が対応している。歯科の訪問診療もあり、必要に応じて医療機関への受診支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日に訪問看護が来訪している。その際に状態報告を行っている。急変時の場合にも対応できる体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院まで付き添い情報の提供、ご家族や病院連携室と連絡を取り、適切な対応が取れるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族の希望・意向を再確認し、記録している。利用者様の心身の変化は、ご家族のキーパーソン面会時や電話にて随時報告している。重度化が進む段階でご本人のことを考え、ご家族と話し合っている。また、毎年確認する事のアドバイスを頂き、今後準備していく。	重度化に向けた指針があり、入居時から段階的に利用者や家族に説明、確認をしている。看取りの事例もあり、今後協力医との連携によって利用者、家族の意向に沿った看取りを検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故対応マニュアルを作成し、事務所の決まった場所にあり職員が確認している。 事故報告書を元に会議時に検討し再発防止に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は消防署・防災設備会社指導の下、年2回の訓練を行っている他、毎月、自主訓練を実施している。水害等の避難場所を確認し、職員に周知徹底している。	消防署、防災設備会社による年2回の防災訓練と夜間、地域特有の水害を想定した自主訓練、通報訓練を毎月実施している。緊急時の食料品、水、衛生用品等の備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格や尊厳を尊重したケアにつとめている。プライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしないよう努めている。	利用者が不快に思う言葉を避け、年長者に敬意を払った言葉遣いで対応している。申し送りの際は、目につかない場所、イニシャルを用いる等プライバシーに配慮した言動を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が希望や思いを表わせるような言葉かけをしたり、わかる力に合わせた説明を行い、自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合などを優先せず、その人らしく一日を過ごして頂けるよう自分のペースや自分でできることを一番に考え支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や髭剃りはモーニングケア時に行っている。爪切りは入浴後に行っており、乱れている時はその都度整えている。希望者には偶数月の訪問理容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じて頂けるような食材やイベント毎の料理を提供できるように心掛けている。野菜切りや盛り付け等と一緒にやっている。利用者様の希望によりラーメンの出前も取り入れている。	誕生会等の行事食やお節料理等、時期に合った食事を担当職員が手作りし、利用者が調理や盛り付け、配膳を手伝っている。おやつ時は好みの飲み物を選択し、晩酌を楽しむ利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態や摂取量に見合った量を盛り付けている。粥食や刻み食なども個人の状態に合わせている。水分量や確認し、記録にて必要量が確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。見守り・声掛け・仕上げの必要な方など、その方に合わせた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の訴えの他、排泄パターンにより定時誘導を行っている。体温表に排泄チェックを行いパターン把握にて対応している。	排泄チェック表に基づいて定時誘導をし、自立者の排泄支援をしている。利用者によっては夜間おむつやポータブルトイレを使用し、快適な排泄が継続できるよう支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に食物繊維を取り入れ提供している。散歩や体操の実施や水分補給に心掛け、お茶・麦茶・コーヒー・紅茶などを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に合わせての入浴やシャワー浴などの支援を行っている。拒否があった場合は無理強いをせず曜日を変更したり、職員をかえる等で対応している。	利用者の入浴日は決まっているが、毎日入浴の用意はあり、利用者がいつでも入浴できるよう声掛けをしている。異性介助の場合は了解を得るようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調の調節により、安眠への環境作りをしている。各居室の消灯・点灯はご本人の習慣に応じている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬収納扉に各利用者様の薬の説明書をファイルし、直ぐに確認できるようにしている。服薬内容に変更があれば説明書をその都度、更新している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の心身の状態に合わせ、洗濯物たたみテーブル拭き・野菜切り・盛り付けなどの日常の手伝いをして頂いている。塗り絵・トランプ・風船バレー・散歩など一人ひとりの楽しみごとをレクに取り入れ気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族との外食・受診の他、花見・お茶会・恵比寿講など季節を肌で感じて頂けるような外出行事の支援を行っている。	天候によりウッドデッキで外気浴、お茶を楽しんでいる。利用者の状態によって個別で散歩や買い物、美容院に出掛けたり、畑で水やりや収穫をする支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の申し出により自身の財布の中にお賽銭程度や孫へのお小遣いの為に現金を所持されている方もいた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が家に電話したいとの希望があれば、ご家族の環境を考慮した上での対応を行っている。毎年、ご家族に年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や利用者様と一緒に作った作品を玄関やリビングに飾り季節感を出している。利用者様にとって居心地良く過ごせるよう、居室にカーテンや外によしず・すだれを使い光や温度など季節に合わせて調節している。	共用空間は臭いもなく清潔で、利用者の手作り作品が飾ってある。利用者同士の相性を考慮したテーブルの配置や利用者が快適に生活できるよう採光、温度や湿度を調節している。	高齢者の生活の場としてふさわしい大人の設えや、利用者にわかりやすい掲示等の工夫をしてほしい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファがリビング・東廊下・西廊下にそれぞれ置いてあり思い思いに過ごされている。天気の良い日にはウッドデッキでお茶を飲んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具・食器・箸・日用品などを持参して頂いている。居室内はご本人とご家族と相談し、過ごしやすいような配置になっている。	在宅時に使用していた家具や衣料、身の回りの物、家族の写真等を置いて、その人らしい個性ある居室作りをし、居心地よく自由に居室で過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	和室にはしっかり段差があり、その段差に座り過ごす方もいる。見守ることにより“出来ること・出来ないこと”を把握し、一人ひとりに合った生活を送れるようつとめている。キッチンからリビングが見渡すことができる。		